法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

宇佐美誠次郎教授業績目録

(出版者 / Publisher)
法政大学経済学部学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
経済志林 / The Hosei University Economic Review
(巻 / Volume)
52
(号 / Number)
3・4
(開始ページ / Start Page)
234
(終了ページ / End Page)
258
(発行年 / Year)
1985-03-15

宇佐美誠次郎教授業績目録

I 著書

労働調査協議会編『新しい労働賃銀――解説と資料』（共同執筆）　産業復興会議、一九四七年六月

日本銀行調査局特別調査室編『満洲事変以後の財政金融史』（共同執筆）　日本銀行、一九四八年一一月　のち、日本銀行調査局編『日本金融史資料――昭和篇――』、第二七巻、一九七〇年、再録

国家独占資本主義論（共著）　潮流社、一九五〇年二月

危機における日本資本主義の構造（共著）　岩波書店、一九五一年一二月

日本の独占資本――その解体と再編成――　新評論社、一九五三年一一月

増補・日本の独占資本――その解体と再編成――　新評論社、一九五五年二月

大蔵省昭和財政史編集室編『昭和財政史』第四巻「臨時軍事費」　東洋経済新報社、一九五五年三月

財政学（上）　法政大学出版局、一九五六年六月

日本壟断資本　北京・世界知識社（『日本の独占資本』の中国語訳）、一九五六年六月

大蔵省昭和財政史編集室編『昭和財政史』第一一巻「金融（下）」　東洋経済新報社、一九五七年一二月

大蔵省昭和財政史編集室編『昭和財政史』第一三巻「国際金融・貿易（後編）」（共著）　東洋経済新報社、一九六二年一〇月

宇佐美誠次郎小論集　宇佐美誠次郎小論集刊行会、一九七六年三月

財政学　法政大学通信教育部、一九八二年六月

大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第二三集（共同執筆）　時事通信社、一九五一年一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第二四集（共同執筆）　時事通信社、一九五一年一〇月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第二五集（共同執筆）　時事通信社、一九五一年一一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第二六集（共同執筆）　時事通信社、一九五三年一一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第二七集（共同執筆）　時事通信社、一九五四年一一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第二八集（共同執筆）　時事通信社、一九五五年一一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第二九集（共同執筆）　東洋経済新報社、一九五六年一一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三一集（共同執筆）　東洋経済新報社、一九五八年一一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三二集（共同執筆）　東洋経済新報社、一九五九年一一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三三集（共同執筆）　東洋経済新報社、一九六〇年一二月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三四集（共同執筆）　東洋経済新報社、一九六一年一二月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三五集（共同執筆）　東洋経済新報社、一九六二年一二月

法政大学大原社会問題研究所編『太平洋戦争下の労働者状態』（日本労働年鑑特集版）（共同執筆）　東洋経済新報社、一九六四年一〇月　のち、日本労働年鑑別巻『太平洋戦争下の労働者状態・労働運動』、労働旬報社、一九七一年七月、所収

法政大学大原社会問題研究所編『太平洋戦争下の労働運動』（日本労働年鑑特集版）（共同執筆）　労働旬報社、一九六五年一〇月　のち、日本労働年鑑別巻『太平洋戦争下の労働者状態・労働運動』、同社、一九七一年七月、所収

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三六集（共同執筆）　労働旬報社、一九六六年三月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三七集（共同執筆）　労働旬報社、一九六六年一一月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三八集（共同執筆）　労働旬報社、一九六七年一二月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第三九集（共同執筆）　労働旬報社、一九六八年一二月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第四〇集（共同執筆）　労働旬報社、一九六九年一二月

法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』第四一集（共同執筆）　労働旬報社、一九七〇年一二月

Ⅱ　編集・監修・校閲（編著を含む）

歴史学研究会編『太平洋戦争史』全五巻（編集）　東洋経済新報社、一九五三年九月～一九五四年七月

『経済学講座』全五巻（編集）　大月書店、一九五四年五月～一九五五年一〇月

『日本資本主義研究入門』全三巻（編集）　日本評論新社、一九五七年六月～一一月

『マルクス経済学講座』全四巻（編集）　有斐閣、一九六三年一月～一九六六年三月

『マルクス経済学体系』全三巻（編集）　有斐閣、一九六六年四月～九月

『マルクス主義経済学講座』（上・下）（監修）　新日本出版社、一九七一年四月～六月

『新マルクス経済学講座』全六巻（編集）　有斐閣、一九七二年五月～一九七六年一一月

東京学生消費組合図書部『図書評論』復刻版（編集代表）　霞ヶ関出版、一九七九年三月
『マルクス「資本論」の研究』（上・下）（監修）　新日本出版社、一九八〇年九月・一〇月

Ⅲ　翻　訳

ウィットフォーゲル『支那社会の科学的研究』（共訳）　岩波書店（岩波新書）、一九三九年四月
ウィットフォーゲル「経済史の自然的基礎」（共訳）　ウィットフォーゲル『東洋的社会の理論』、日本評論社、一九三九年六月、所収
『中国の赤い星』（上）（共訳）　永美書店、一九四六年一二月
エドガー・スノー「毛沢東の自叙伝――『中国の赤い星』より――」　黄蜂、創刊号、一九四六年四月
カール・マルクス『マルクス金融論Ⅰ』（『資本論』第三巻「利子生み資本」）（共訳）　青木書店、一九四九年四月
マルクス『経済学批判』の準備ノート　社会科学、第二号、一九五〇年四月
エドガー・スノー『中国の赤い星』　筑摩書房、一九五二年七月
ペヴズネル『日本の財閥』Ⅰ・Ⅱ（校閲）　岩崎書店、一九五三年八月・一〇月
ヒュウレット・ジョンソン『新中国紀行――若き創造の中国――』　理論社、一九五四年一〇月
「剰余価値学説史」新版序文　マルクス・レーニン主義研究、第四号、一九五五年二月
現代財政論（共訳編）　大月書店、一九五五年四月
クチンスキー『戦後西ドイツの政治と経済』（共訳）　未来社、一九五九年一〇月

『マルクス=エンゲルス全集』第九巻（共訳）　大月書店、一九六二年七月
エンゲルス「資本論綱要」　『マルクス=エンゲルス全集』第一六巻、大月書店、一九六六年一月、所収
『マルクス=エンゲルス全集』第一七巻（共訳）　大月書店、一九六六年八月
エンゲルス『『資本論』綱要』　大月書店（国民文庫）、一九六七年一二月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』①「競争」（翻訳校訂）　大月書店、一九六八年四月
ルドルフ・ヘルボルン『西ドイツの独占資本――西欧市場への進出――』（監訳）　法政大学出版局、一九六八年一〇月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』②「方法Ⅰ」（翻訳校訂）　大月書店、一九六九年三月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』③「方法Ⅱ」（翻訳校訂）　大月書店、一九六九年一二月
クチンスキー「マルクス主義の不可欠の参考書」　マルクス経済学レキシコンの栞、第三号、一九六九年一二月
クチンスキー「日本旅行記」　資料室報、第一六二号、一九七〇年六月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』④「唯物史観Ⅰ」（翻訳校訂）　大月書店、一九七一年三月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑤「唯物史観Ⅱ」（翻訳校訂）　大月書店、一九七一年一二月
アイケ・コプフ「トウキョウのレキシコン」　マルクス経済学レキシコンの栞、第五号、一九七一年一二月
ユルゲン・クチンスキー『国家・経済・文学』　法政大学出版局、一九七一年一二月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑥「恐慌Ⅰ」（翻訳校訂）　大月書店、一九七二年九月
トゥーフシェーラー『初期マルクスの経済理論』（上）（監訳）　民衆社、一九七三年九月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑦「恐慌Ⅱ」（翻訳校訂）　大月書店、一九七三年九月

久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑧「恐慌Ⅲ」（翻訳校訂）　大月書店、一九七五年一月
『マルクス＝エンゲルス全集』第三七巻（共訳）　大月書店、一九七五年四月
日本ドイツ民主共和国友好協会編集委員会編『躍動の二五年――ドイツ民主共和国の現状と将来』（共訳、はしがき）　民衆社、一九七五年七月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑨「恐慌Ⅳ」（翻訳校訂）　大月書店、一九七六年三月
テーケイ『社会構成体論――マルクス歴史理論の研究（一）――』（共訳）　未来社、一九七七年一〇月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑪「貨幣Ⅰ」（翻訳校訂）　大月書店、一九七九年八月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑫「貨幣Ⅱ」（翻訳校訂）　大月書店、一九八〇年一〇月
シューバルト「回想の大塚金之助」　大塚金之助著作集月報、第一〇号、一九八一年一一月
ウィットフォーゲル『支那社会の科学的研究』（共訳）　岩波新書特装版、一九八二年三月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑬「貨幣Ⅲ」（翻訳校訂）　大月書店、一九八二年六月
マルクス『資本論』第一巻第一～四分冊（編集・統一）　新日本出版社、一九八二年一一月～一九八三年五月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』⑭「貨幣Ⅳ」（翻訳校訂）　大月書店、一九八四年四月
マルクス『資本論』第二巻第一～三分冊（編集・統一）　新日本出版社、一九八四年一一月～一九八五年三月

Ⅳ　論　文

東洋史学界・アジア的生産様式　歴史学研究、特集「歴史学研究年報」、一九三五年一一月
支那農業経済研究序説（卒業論文）　一九三七年三月

我国農業における賃労働と富農経営の発達について（報告・一九三七年一月三〇日学士会館）　歴史学研究、第七巻第三号、一九三七年三月、「会報」欄（抄録）

アジア的生産様式に関する論争の史的展開（報告・一九三七年七月一五日学士会館）　歴史学研究、第七巻第八号、一九三七年八月、「会報」欄（抄録）

ウィットフォーゲル博士と支那研究（筆名・伊東鳥夫）　図書評論、第二一号、一九三七年八月

ウィットフォーゲル博士と支那研究近況（筆名・馬場次郎）　歴史学研究、第八巻第六号、一九三八年六月

長江をめぐる国際資本の投下（上）（下）　大阪毎日新聞、一九三八年八月二四日～二五日　のち、大阪毎日新聞社編『揚子江』、一九三八年九月、所収

紡績資本の対華輸出について――対外投資史に関するノートから――　東方学報、第一一冊之一、一九四〇年三月

社会経済史学の発達・中華民国　社会経済史学、第一〇巻第一一・一二合併号、一九四一年三月

支那における紡績業の発達と外国資本　大日本紡績聯合会編『東亜共栄圏と繊維産業』、文理書院、一九四一年三月、所収

中国経済の現段階　世界経済、一九四六年四月号

民主主義革命と石橋財政――新予算案の示すインフレへの途――　東京帝大新聞、一九四六年八月二七日号

中国及び朝鮮の輿論と天皇制　歴史学研究会編『歴史家は天皇制をどう見るか』、新生社、一九四六年九月（三一書房、一九四八年三月、再刊）、所収

インフレと労働階級　調査資料（日本新聞通信放送労働組合）、第八輯、一九四六年

公債の累増と消化の見透し　調査時報、一九四六年一一月号
日本金融資本の現状と性格　朝日評論、一九四八年一月号
戦争経済の遺産――第二章・国家資本主義と産業構成の高度化　潮流、一九四八年一月号
意識的な擁護政策――インフレーションと金融資本――　法政大学新聞、一九四八年四月二五日号
金融資本は「後退」したか（筆名・長沢鋭市）　中央公論、一九四八年四月号
国家資本主義小論（筆名・長沢英市）　評論、一九四八年五月号
財政論における旧教徒と新教徒（無署名）　経済評論、一九四八年七月号
戦後三年の財政とインフレーション　探求、第七号、一九四八年八月
日本金融資本の現実形態　思索、一九四八年一〇月号
日本における国家独占資本主義の展開――戦争経済の遺産（その二）――（共同執筆）　潮流、一九四八年一〇月号
日本における国家独占資本主義と植民地――戦争経済の遺産（その三）――（共同執筆）　潮流、一九四八年一一月号
国家資本主義の理論と現実　経済学研究、第二号、一九四八年一二月
戦後日本経済の再編成過程――再編国家独占資本主義論のプロローグ――（共同執筆）　潮流、一九四九年四月号
「九原則」と組合活動の当面するもの――新しい情勢への見透し――　銀行労働調査時報、第四号、一九四九年のち、全銀連一九四九年四月七日、一四日号、再録

竹馬経済のゆくえ　知識人、二の五号、一九四九年五月
戦後独占資本主義の補強機構――再編国家独占資本主義論の一齣――（共同執筆）　潮流、一九四九年六月号
国家独占資本主義と人民民主主義（共同執筆）　潮流、一九四九年七月号
戦後日本における半封建制と独占資本（共同執筆）　経済評論、一九四九年一〇月号
財政学の「独自性」について　経済志林、第一七巻第一・二合併号、一九四九年一〇月
補正予算と大衆課税――「減税」の正体――　銀行労働調査時報、第八号、一九四九年　のち、全銀連、一九五〇年一月三日号、再録
日本戦時財政史の一断章――軍事費「現地調弁」のカラクリ――　経済志林、第一九巻第一号、一九五一年一月
眠りをさましつつある財閥――黒田氏の「囚われた先入観」を批判する――　エコノミスト、一九五二年二月二一日号
民族資本と平和経済（共同執筆）　中央公論、一九五二年四月号
従属体制下における産業構造と独占　経済評論、一九五二年八月号
現在の恐慌の特質　エコノミスト、一九五二年九月一一日号
漁業と財政・金融（共同執筆）　近藤康男編『日本漁業の経済構造』、東京大学出版会、一九五三年一月、所収
独占資本の「南への郷愁」　エコノミスト、一九五三年二月七日号
現段階における財政の特質と危機（共同執筆）　経済評論、一九五三年三月号
経済危機の分析――予算の軍事化を中心として――　改造、一九五三年三月号
アメリカの日本経済支配の実態　社会主義、第二三号、一九五三年四月

資本家　思想、一九五三年六月号
朝鮮休戦の意味するもの　法政、一九五三年七月号
アメリカ資本による日本経済の支配　日本労働組合総評議会編『日本平和経済の理論』、青木書店、一九五三年八月、所収
銀行――国民経済を支配するもの――　世界、一九五三年八月号
日本の財閥　『現代史講座』第三巻「世界史と日本」、創文社、一九五三年八月、所収
太平洋戦争と日本帝国主義の崩壊（共同執筆）　『日本資本主義講座』第一巻、岩波書店、一九五三年九月、所収
経済恐慌と現在の財政政策（共同執筆）　経済評論、一九五三年一〇月号
「一兆円予算堅持」の意味するもの　エコノミスト、一九五三年一〇月二四日号
ＭＳＡ援助は耐乏生活を要求する　中央公論、一九五三年一一月号
日本独占資本主義の性格　『日本歴史講座』第七巻「現代篇」、河出書房、一九五三年一二月、所収
戦後財政の基本的性格　『日本資本主義講座』第四巻、岩波書店、一九五四年四月、所収
デフレと恐慌　改造、一九五四年八月号
財政金融緊縮政策與日本的経済危機　「国際問題譯叢」第一二期、北京・世界知識社、一九五四年、所収
従属経済と独占資本　『日本資本主義講座』第一〇巻、岩波書店、一九五五年二月、所収
日本資本主義に関する研究　『相川春喜小伝』、同刊行会、一九五五年四月、所収
財政学者の課題を明らかにするために　経済評論、一九五五年八月号
日本資本主義の歴史と現状　『経済学講座』第五巻、大月書店、一九五五年一〇月、所収

マルクス経済学の新しい前進へ――イギリスに於ける最大限利潤の討論をめぐって――　東京経済大学新聞、一九五六年六月二〇日号

資本蓄積と小商品生産――日本資本主義構造論の再検討（その一）――（共同執筆）　思想、一九五七年一月号

日本における資本蓄積と半封建制――日本資本主義構造論の再検討（その二）――（共同執筆）　思想、一九五七年二月号

独占段階における賃金と日本農業――日本資本主義構造論の再検討（その三）――（共同執筆）　思想、一九五七年三月号

歴史学研究会・日本史研究会編『日本歴史講座』第六巻「日本帝国主義」序論　東京大学出版会、一九五七年三月、所収

ＤＤＲにおける資本主義経済研究　日独文化通信、第一九号、一九五八年五月

東ドイツにおける資本主義経済研究の現状　経済志林、第二六巻第三号、一九五八年七月

新中国における経済学の研究と教育　経済志林、第二七巻第三号、一九五九年七月

西ドイツと日本の労働者階級構成の比較のために　資料室報、第五七号、一九六〇年五月

火力発電における技術革新と労働者の変化――東京電力における実態調査――（共同執筆）　資料室報、第六一号、一九六〇年一〇月

中小企業の労働力構成　法政大学大原社会問題研究所編『中小企業労働者論』、東洋経済新報社、一九六〇年一〇月、所収

戦時労働年鑑の編纂のために――『日本労働年鑑』の変遷と戦時年鑑編纂用の資料について――　資料室報、第

六四号、一九六一年一月

戦時下の文化運動とその弾圧などにかんする諸資料――戦時労働年鑑編纂のために（その二）――　資料室報、第七一号、一九六一年一〇月

戦争末期における労働者の食生活についての資料――戦時労働年鑑編纂のために（その三）――　資料室報、第七七号、一九六二年四月

「土台・上部構造」の理論について　経済研究、第一三巻第三号、一九六二年七月

戦時労働力としての中国人捕虜の資料（一）――戦時労働年鑑編纂のために（その四）――　資料室報、第八九号、一九六三年六月

満州侵略　『講座日本歴史』第二〇巻「現代（三）」、岩波書店、一九六三年八月、所収

戦時労働力としての中国人捕虜の資料（二）――戦時労働年鑑編纂のために（その五）――　資料室報、第九〇号、一九六三年八月

技術的進歩と雇用の変動――アメリカと西ドイツの場合――　資料室報、第一〇一号、一九六四年八月

ＤＤＲ経済の躍進――エネルギー産業の現状――　日独友好ニュース、第六号、一九六四年九月

太平洋戦争下の労働運動　労働運動史研究、第四〇号、一九六五年九月

戦時下の労働者・労働運動について　資料室報、第一一六号、一九六六年一月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

社会科学専門図書館における図書分類の問題――東ドイツにおける分類法を中心に――　資料室報、第一二六号、一九六七年一月

一〇〇年来の世界各国の実質賃銀と搾取率の推移――クチンスキー教授の推計――　資料室報、第一四二号、一九六八年七月

金融資本と金融寡頭制（共同執筆）　『新マルクス経済学講座』第二巻、有斐閣、一九七二年一〇月、所収

クチンスキーの「労働者階級論」　資料室報、第一八九号、一九七二年一二月

新メガの編集をめぐって（一）（二）、（三）への補遺　資料室報、第二五七号・第二六六号・第二六八号、一九七九年八月・一九八〇年六月・八月

カーネギー平和財団と大内兵衛＝櫛田民蔵　研究資料月報、第二七二号、一九八一年一月

V　書　評

劉大鈞著『上海の発展及工業』・方顕廷『支那における工業組織』　東方文化、第二号、一九三七年一一月

D. K. Lieu: The Growth and Industrialization of Shanghai.（筆名・志賀原進）　歴史学研究、第八巻第一号、一九三八年一月

ピール卿『支那の経済及商業状態に関する報告』　東方文化、第四号、一九三八年三月

飯淵敬太郎『日本信用体系前史』　潮流評論、第一号、一九四九年

「国際都市」に躍る群像――描き分けられる青年のタイプ・茅盾作、尾坂徳司訳『真夜中』第一部――　法政大学新聞、一九五一年一一月一五日号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

占領統治史の鳥瞰図――日本政治学会編『戦後日本の政治過程』　図書新聞、一九五三年五月二日号

竹内好・ほか著『中国革命の思想』　図書、一九五四年一月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三

月、所収

二つの待合室にいる民族――『ボンとモスクワの間』を読んで――　図書、一九五九年二月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

正確なハンドブック――中国研究所編『中国年鑑一九五九年版』――　読書新聞、一九五九年八月一〇日号

東ヨーロッパの現地報告――小林雄一『社会主義の生活をみる』――　朝日ジャーナル、一九六〇年六月五日号

Ⅵ　序文・跋文・紹介・解題・解説・索引・文献目録・年表

日本における「アジア的生産様式」論争文献（一）（二）（筆名・浅海士郎）　歴史学研究、第三巻第一号・第二号、一九三四年一一月・一九三五年三月

日本における史的唯物論文献（一）～（五）（筆名・緒方弘三・唐沢尚夫）　図書評論、第一〇～一四号、一九三六年一月～五月

中国問題文献目録（筆名・久坂権太郎）　図書評論、第二一号、一九三七年八月

列国の対支投資に関する文献目録（洋書）（一）～（四）　東亜研究所報、第六～九号、一九四〇年八月～一九四一年四月　のち、東亜研究所『列国対支投資及び支那国際収支に関する文献目録』、一九四二年三月、所収

大内教授著作目録　謄写印刷、一九四六年九月一五日

財閥関係文献目録（Ⅰ）（Ⅱ）　持株調査時報、第一巻第一号・第二号、一九四八年四月号・八月号

銀行とは　全銀連、一九四八年一二月一日号

マルクス金融論（紹介）　全銀連、一九四九年五月三一日号

戸谷敏之『近世農業経営史論』あとがき　日本評論社、一九四九年九月
法政大学中国研究会篇「中華民国法政大学留学・卒業生人名鑑」序　法政大学中国研究会、一九四九年一一月
教養文献案内「経済」（筆名・長沢栄市）　読書新聞、一九五〇年四月五日号
ペヴズネル『日本の財閥』（紹介）　読書校内（岩崎書店）、創刊号、一九五二年一月
統計の魔術　海城新聞、一九五二年七月三日号
朝鮮休戦と労働者階級　川鉄新聞、一九五三年七月一日号
日本資本主義講座の刊行に先だって　図書、一九五三年八月号
この講座の特色――共同研究について――　日本資本主義講座月報、第一号、一九五三年九月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
戦後日本資本主義年表附解説（編集責任者）　『日本資本主義講座』別巻、岩波書店、一九五四年一月
野呂栄太郎著『日本資本主義発達史』解説　岩波書店（岩波文庫）、一九五四年四月、所収
執筆者として　昭和財政史たより、第四号、一九五五年三月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
日本を蔽う外国資本の影　読書タイムス、一九五五年一月一五日号
「金融（下）」編について　昭和財政史たより、第八号、一九五七年一二月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
「社史」について――社史・行史・経営団体史の紹介――（共同執筆）　資料室報、第三六号、一九五八年六月
注目すべき新内容――ソ連科学アカデミー版『経済学小辞典』――　同書内容見本、青木書店、一九六〇年一月

「国際金融・貿易」後編について――日華事変より終戦まで――　昭和財政史たより、第一四号、一九六二年一〇月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

渡辺佐平先生略歴・著作目録（共編）　『金融論研究』、法政大学出版局、一九六四年二月、所収

軍事化と雇用――ホルガー・マイヤの論文紹介――　資料室報、第一一〇号、一九六五年六月

『資本論』とドイツ労働運動――ドゥルーベック教授の論文の紹介――　資料室報、第一三二号、一九六七年八月

戦前版『日本労働年鑑』を復刻するにあたって　内容見本、労働旬報社、一九六七年九月

マルクス経済学レキシコン刊行のことば　『マルクス経済学レキシコン』①、一九六八年四月、所収　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

『資本論』諸版の出版年と出版部数（紹介）　マルクス経済学レキシコンの栞、第一号、一九六八年四月

クチンスキーの「労働者状態史」全四〇冊が生れるまで　資料室報、第一五〇号、一九六九年四月

『帝国主義論』の刊行と邦訳の諸版　資料室報、第一八一号、一九七二年三月

日本経済学史略年表（校閲）　経済、一九七二年五月号

井上晴丸「日本経済の構造と農業（一）」解題　『井上晴丸著作選集』第一巻、雄渾社、一九七二年六月、所収

『帝国主義論』の出版経緯と各国語への翻訳　経済、一九七三年四月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

『帝国主義論』の邦訳諸版と訳語の問題　経済、一九七三年六月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

大原研究所所蔵の『資本論』初版本とクーゲルマン文庫、ハースバハ文庫など（上）（下）　資料室報、第二〇四号・第二〇六号、一九七三年六月・八月
現在の世界経済恐慌についてのベルリン・シンポジウム　資料室報、第二一六号、一九七五年七月
『資本論』ドイツ語諸版の装本とアイケ・コプフ君の研究　資料室報、第二二六号・第二三〇号、一九七六年七月・一二月
新「メガ」第二部刊行開始記念のミュールハウゼン・シンポジウム　資料室報、第二三四号、一九七七年五月
社会・労働関係資料（洋書の貴重本一斑）　資料室報、第二三八号、一九七七年九月
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』「方法」篇事項索引　『マルクス経済学レキシコン』⑩「索引」、大月書店、一九七八年一月
クチンスキー文庫（一）（二）　資料室報、第二四三号・第二四八号、一九七八年三月・九月
図書資料管理問題検討委員会答申（議長）　法政大学、一九八〇年三月
日本ドイツ民主共和国友好協会編『社会主義のドイツ』はじめに　大月書店、一九八一年四月、所収
大原研究所所蔵貴重洋書を補完するための洋書の収納　研究資料月報、第二七六号、一九八一年六月
『大塚金之助著作集』第八巻「社会思想の旅立Ⅱ」解説　岩波書店、一九八一年七月
ＩＭＬＢの蔵書とその歴史　研究資料月報、第二七九号、一九八一年九月

Ⅶ　辞典項目

中央公論社『支那問題辞典』（執筆項目）外国の対支投資　中央公論社、一九四二年三月

日本経済機構研究所編『政治経済大辞典』　（執筆項目）独占資本・金融資本・国家独占資本主義　岩崎書店、一九四九年五月

平凡社『世界歴史事典』　（執筆項目）井上準之助・日華事変・満州事変　平凡社、一九五一年四月～一九五五年一二月

大阪市立大学経済研究所編『経済学小辞典』　（執筆項目）財閥・独占資本・日本銀行　岩波書店、一九五一年六月

平凡社『哲学事典』　（執筆項目）国家資本主義　平凡社、一九五四年一月　新版、一九六六年四月

平凡社『政治学事典』　（執筆項目）ウクラード・外資導入・官僚資本・強権発動・金融緊急措置・金融資本・軍事費・経済安定本部・傾斜生産・国策会社・国家資本・国家独占資本主義・財閥・集中生産・戦争経済・炭坑国管・ドッジライン・日銀政策委員会・日本銀行・買弁・平和産業・見返資金・南満州鉄道株式会社・民族資本　平凡社、一九五四年五月

平凡社『経済学事典』　（執筆項目）財閥・日銀　平凡社、一九五四年六月

平凡社『工業大辞典』　（執筆項目）イー・ゲー・ファルベン　平凡社、一九六二年二月

大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典』　（執筆項目）軍事費・財政⑤ドイツ・社会主義財政・補給金　岩波書店、一九六五年九月

Ⅷ　公述・対談・座談会

国家独占資本主義をめぐって（座談会）　社会科学、第十九号、一九四八年一一月

回顧と展望――一九四八・一九四九――（座談会）　全銀連、一九四九年一月一日号
日本資本主義分析の方法論――国家独占資本主義討議――（座談会）　民主評論、一九四九年三月号
「日銀法一部改正」公聴会における公述――一九四九年五月一三日衆議院大蔵委員会公聴会　銀行労働調査時報、第五号　のち、同、第二九九号、一九七四年八月、再録
「独禁法改正」公聴会における公述――一九四九年七月一七日参議院経済安定委員会公聴会　参議院委員会議事録
大内新総長を語る（座談会）　法政大学通信教育部報、第二六号、一九五〇年七月
「帝国主義論」をめぐって（座談会）　法政大学新聞、一九五一年一〇月一五日号
日本独占資本の性格（一）（二）（討論）　社会主義、第九号・第一〇号、一九五二年二月・三月
予算公聴会における公述――一九五三年六月二九日衆議院予算委員会公聴会　衆議院委員会議事録
科学にかんする二、三の問題点（鼎談）　国民の科学、第八号・第九号、一九五五年一〇月・一二月
財政学の発展のために（座談会）　経済評論、一九五五年一二月号
社会主義諸国を語る（座談会）　法政大学新聞、一九五七年一〇月一五日号
苦労するチップ――見たままきいたまま留学生活――（座談会）　法政、一九五七年一二月号
日本への認識は低い――見たままきいたまま留学生活（二）――（座談会）　法政、一九五八年一月号
強い秩序と重圧――今日のヨーロッパの文化――（座談会）　法政、一九五八年六月号
住んで見た東ドイツと西ドイツ（対談）　経済評論、一九五九年六月号
ソ連邦の学者のみた日本――トペーハ氏を囲んで――（座談会）　歴史評論、第一一三号、一九六〇年一月

戦後の大原社会問題研究所と労働年鑑（座談会）　資料室報、第二〇〇号、一九七三年一月
学問形成と中国認識（一）～（三）（対談）　歴史評論、第三〇九号・第三一〇号・第三一五号、一九七六年一月・二月・七月　のち、歴史科学協議会編『現代歴史学の青春』二、一九八〇年七月、所収
「学消」座談会――戦時下の「図書評論」を中心に――　大学生協連・学協運動、第九二号、一九七八年一月
法政大学大原社会問題研究所の「秘蔵貴重書・書簡特別展示」の意義（座談会）　週間読書人、第一三〇六号、一九七九年一一月一二日　のち、研究資料月報、第二六二号、一九八〇年一月、所収

Ⅸ　随筆・その他

魯迅の五周忌に寄せて　さむらい、一九四〇年七月号
無題（投書）（筆名・亜生）　歴史学研究、第二巻第四号、一九三四年八月、「談話室」欄
佐藤信淵の再興？（投書）（筆名・城東・亜生）　歴史学研究、第三巻第一号、一九三四年一一月、「談話室」欄
無題（投書）（筆名・一文科大学生）　歴史学研究、第三巻第三号、一九三五年一月、「談話室」欄
数字の魔術（投書）（筆名・商蠟人）　歴史学研究、第三巻第六号、一九三五年四月、「談話室」欄
休暇雑記（筆名・経C助）　図書評論、第八号、一九三五年九月二五日
現代史分科会の誕生（無署名）　歴史学研究、第六巻第八号、一九三六年八月、「会報」欄
落水の狗　みやこ新聞、一九四六年九月七日号
河上博士の詩　エルム、復刊第一号、一九四六年八月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
コオン・ビイフ　エルム、復刊第二号、一九四六年八月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所

収

教授のプロフィール・大内兵衛教授　法政大学通信教育部報、第二三号、一九五〇年四月

マルクスの経済学ノートについて　社会科学、第二号、一九五〇年四月

思い出の映画・好きな俳優　法政、一九五一年一月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

歴史を見透す眼を――現代の魔術に抗して――　法政大学新聞、一九五一年六月一日号

読書ノートを作ること　法政大学通信教育部報、第三八号、一九五一年七月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

戸谷君のこと　戸谷敏之『イギリス・ヨーマンの研究』、御茶ノ水書房、一九五一年一〇月、所収

中国・ソ同盟への道――まじめにソロバンをはじき給え――　明治大学新聞、一九五二年一月一五日号

高野先生追憶会の記　法政、一九五二年六月号

スターリンの私事についての無駄話　虹、第三号、一九五三年四月一五日

年表のこと　図書、一九五四年二月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

私の好きな歌句詞　法政、一九五六年三月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

自信ということなど　虹、第一二号、一九五六年四月

産業としての映画――映画産業論序講――　キネマ旬報、一九五六年七月下旬号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

大学構内でみつけた落書　東京新聞、一九五八年五月一二日号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

ドイツの教授と学生から法政大学の教授と学生諸君へ　法政大学新聞、一九五八年五月一二日号
ライプチヒのこと　図書、一九五八年五月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
ソ連の世界経済研究所――外国の研究所めぐり（一）――　資料室報、第三五号、一九五八年五月
中国の経済学会と研究機関　アジア経済旬報、第三七五号、一九五八年一〇月
プラハの経済研究所と経済大学――外国の研究所めぐり（二）――　資料室報、第四二号、一九五九年一月
ドイツで見た芝居のことなど　学鐙、一九五九年三月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
ベルリンの経済研究所――外国の研究所めぐり（三）――　資料室報、第四八号、一九五九年八月
ミュンヘンの下宿のおばさん　学鐙、一九六〇年三月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
小川さんのこと　『こつばき――小川一教授追悼文集』、一九六一年二月、所収　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
温い洋酒のことなど　学鐙、一九六二年二月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
外国の風景　法政、一九六三年一〇月号
私の近況　宇佐美ゼミニュース、第三号、一九六三年一一月
卒業論文について　法政（通教版）、一九六四年一月号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収
教師の感想　宇佐美ゼミニュース、第四号、一九六四年四月

昭和初期の上海と中国　法大教職員日中友好をはかる会機関紙、第一七号、一九六四年九月

図書館について　法政、一九六五年一月号

マーチ・フール　宇佐美ゼミニュース、第六号、一九六五年六月

小選挙区制と政治反動の強化　経済、一九六六年七月号

『資本論』がうまれでるまで――マルクスの学問と友情と生活――　経済、一九六七年五月臨時増刊号　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、および『マルクス「資本論」の研究』下巻、新日本出版社、一九八〇年一〇月、所収

みとおしをもち、古典をすなおに学ぶこと　経済、一九六九年五月号　のち、『マルクス主義経済学講座』上巻、新日本出版社、一九七一年四月、および『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

ドイツ民主共和国での「レキシコン」の反響　マルクス経済学レキシコンの栞、第三号、一九六九年一二月

シャーリイ君のことなど　宇佐美ゼミニュース、第九号、一九七一年一〇月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

告別式でのお別れのことば　『金鳳起君追悼文集』、一九七二年七月、所収　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

晴丸さんと私　経済、一九七三年一二月号　のち、『井上晴丸、その人と時代、蕪風去りてまた還らず』、べりかん社、一九七四年一一月、および『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

戦時中の先生のこと　「大内兵衛著作集月報」第一〇号、岩波書店、一九七五年九月　のち、『宇佐美誠次郎小論集』、一九七六年三月、所収

戸谷敏之君のこと　法政、第二六七号、一九七六年一二月
小林良正先生を悼む　日本とＤＤＲ、第一五号、一九七六年四月
当時の学生たちから見た『経済評論』　『経済評論』復刻版月報、第一〇号、白石書店、一九七七年三月
大塚金之助先生――千日谷会堂の告別式での弔辞――　日本とＤＤＲ、第一七（一九の誤植）号、一九七七年八月
熊谷教授と民主ドイツ　明大経営研究所・経営論集、第二五巻第三・四合併号、一九七八年三月
クチンスキーと推理小説　窓、第二五号、一九七八年六月
久留間先生と『マルクス・レキシコン』　法政、第二八四号、一九七八年七・八月　のち、マルクス経済学レキシコンの栞、第一〇号、大月書店、一九七八年八月、所収
読書のすすめ・わたしの一冊　学協運動、第九七号、一九七八年一〇月
親しかった友人たちの墓碑銘のために　『図書評論』復刻版別冊、霞ヶ関出版、一九七九年三月
『図書評論』のこと　東京新聞、一九七九年四月一六日号夕刊
私録大内先生年譜抄　法政、第三〇三号、一九八〇年六月
焦眉の理論問題との格闘を　『現代資本主義分析講座』内容見本、岩波書店、一九八〇年一一月
大内先生の演習テーマと試験問題　経友（東大経済学部）、第八八号、一九八〇年九月
『資本論』の序文　『マルクス「資本論」の研究』上巻、新日本出版社、一九八〇年九月
忘れられない本　うさみし（宇佐美ゼミ機関紙）、第三号、一九八〇年一二月
ＤＤＲでの『レキシコン』　マルクス経済学レキシコンの栞、第一一号、一九八〇年一〇月

一九三五年前後　『平野義太郎――人と学問』、大月書店、一九八一年二月、所収
久留間鮫造先生の学問上のお仕事など　研究資料月報、第二九四号、一九八三年三月
櫛田民蔵蔵書に関連して　研究資料月報、第二九八号、一九八三年七月
一九三〇年代のマルクス学習生のメモから　経済、第二二七号、一九八三年三月
久留間鮫造先生を悼む　経済学史学会年報、第二一号、一九八三年一一月
久留間先生の一周忌に　研究資料月報、第三〇四号、一九八四年二月

（右の「宇佐美誠次郎教授略年譜」および「宇佐美誠次郎教授業績目録」は、宇佐美教授の還暦を記念して刊行された『宇佐美誠次郎小論集』所収の、天野光則千葉商科大学教授作成にかかる「略歴および著作年譜」を基礎とし、さらに補訂資料およびその後の追加資料を天野教授に提供していただいて作成したものである。宇佐美教授には、通覧をお願いし、多くの訂正をはかることができた。天野教授および宇佐美教授に深謝したい。なお、「業績目録」において新聞・雑誌についてはその出版社等の記載を省略した。――大谷禎之介）